



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

緑地公園にある鋳物師7人衆と子供達が作ったブロンズ像の後に、白梅が咲いているのに気づきました（上の写真）。すぐそばに紅梅も咲いていました。改めて公園内を見回してみると、喫茶店横の出入りに紅白のしだれ梅が一对、弥栄節踊りの銅像の横に同じく紅白のしだれ梅が一对ありました。実際に花が咲いている時期に行かないと気づかないものですね、おそらく近所でありながら気づいていないことがまだまだあるのではないのでしょうか。

## 町なみを考える藤グループが

### 富山県県土美化推進県民会議会長表彰

金屋町の「町なみを考える藤グループ」（新保智子代表）が、このほど富山県県土美化推進県民会議（犬島伸一郎会長）から表彰を受けることになりました。



新保智子 代表

これは、金屋緑地公園の掃除を継続的に行ってきたことが評価されたものです。表彰は4月25日に県民会館において行われます。

### 鋳物資料館

## 解説ボランティア養成セミナー

鋳物資料館では2月末から3月末にかけて、4回に分けて主題のセミナーを行いました。講師は般



マニュアルを見ながら解説実演する受講者達

若慎一郎館長が務め、鋳物資料館運営委員・婦人会・町なみを考える藤グループなどの28名が受

講しました。

鋳物資料館は4月から金屋町自治会が指定管理者になりましたが、お客様へのサービス向上策として、住民が展示品や歴史を解説できる体制を作りたいという趣旨で実施したものです。

## 金森藤平商事が

### 400年記念誌を刊行

1611年の金屋町開町の時に西部金屋から引っ越してきた鋳物師7人衆の中の金森藤右衛門が、金森藤平家のルーツであると推測し、そこから数えて400年ということで「金森藤平商事の400年」と題する記念誌が編纂・発行されました。



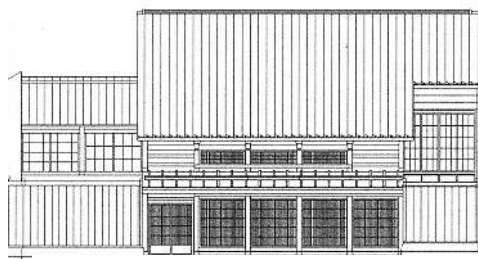
単なる社史にと

どまらず、鋳物の生い立ちから高岡鋳物師の歴史をまとめており、興味深い内容になっています。金森藤平家の当主は代々藤平を襲名し現在は第10代になっていますが、菩提寺である光證寺が昔庄川の洪水で流されたことから明治以前の過去帳が残っておらず、明確に分かっているのは6代目が明治12年（1879）に亡くなったという記述以後だそうです。

「高岡市史」に「明治11年(1878)金森藤平(ヤマト)工場創立」とあり、ヤマト鑄造の名称で鑄造業から始まった金森藤平家の近代史は7代目藤平の時代に始まり、そこからだと133年になります。

現在の金森藤平家住宅は明治29年(1896)に第7代藤平が建築し、昭和通りが作られた昭和12年には、道路用地にかかったことから現在の場所へ曳家(移動)したものです。

明治から昭和初期にかけて北海道向けのニシン釜がヒット商品となり、大正時代には年間5,000個を出荷したそう



金森藤平邸

ですが、北海道開拓記念館の資料によると昭和初期のニシン釜生産者は、喜多万右衛門・喜多喜三郎・金森藤平・般若清助・般若善四郎・富田宗左衛門・富田宗治郎・南部長七・藤田仁右衛門であり、その他に金森与太郎・金森庄吉・鍋屋一郎右衛門らが北海道へ移住して現地生産していたそうです。現在の町並みに残るさまのこの旧家とこれらの名前を照らし合わせると、なるほど「ニシン釜御殿」だと納得してしまいます。

鑄物資料館に1冊を寄贈していただきましたので、興味ある方は読みに来てください。

## 地域活動紹介フェスティバル

3月17日、ふれあい福祉センターにおいて市民協働課が主催して「高岡いいまち!協働のまち!活動紹介フェスティバル」が開催されました。金屋町まちづくり協議会も参加し、今後の町づくりについておおむね以下のような発表をしました。

- ① 生活環境を改善し、町並みの維持を図る。
- ② 活性化した活動の維持とコミュニケーションを大切にする。
- ③ 町に愛着を持ち住み続けることを誇りとする。

④ 来町者には“おもてなし”の心で接する。

⑤ 町の品格を大切にする。

## 第1回

# 千保川桜クルーズ

主題のイベントが初めて開催され、4月15日に舟に乗り川の中から兩岸の七部咲き桜を見上げてきました。

一文橋下流に設置された仮足場から10人乗りゴムボートに乗り、中島橋までの約2kmを30分かけて下ったのですが、いつもと異なる視点から景色を見ると新発見があります。南星町あたりで兩岸に桜並木があることに気づきました。また至近距離から川面を見ると、自分の感覚よりもうんと水がきれいなことにも気づきました。



同乗した高齢のおばちゃんグループは岸の見物人に手を振ったり声をかけたりとおおはしゃぎで、遊園地のジェットコースターのように、とても楽しいひと時でした。

## 場の現状が、らしさを作り

## らしさが、場の価値を作る

4月8日に桜クルーズのプレイメントとして、上映会と記念講演会が開催され、富山大学芸文学部の武山教授が「高岡のらしさづくり」と題して講演し、「現状」と「らしさ」と「価値」の関係を見出しの様に説明されましたが、金屋町のらしさと価値づくりにもそのままあてはまることであり、おおいに共感したところです。